

# 研究所だより

研究所責任者 武 敏夫

先日ももてなしの東京五輪大会が終わり、数々の話題がマスコミに取り上げられて話題になりましたが、大会スタッフで一人の女性ボランティアの方が注目されました。お名前が「ストイコビッチ、河島」お若い方でオリンピック通訳ガイドの試験での合格者でした。8月19日早朝陸上男子110M障害のジャマイカの選手で「ハンスル・パーチメント」さん。コロナウイルスの検査チェックが大変で満身に練習出来ない焦りと不安等で少々早く着いた有明競技場。見慣れぬ競技場にビックリ。早朝の会場には準備の方々が忙しく働いていて違う世界に自分一人。時間も迫り、困っている所へ河島さんが通りかかり、タクシーを手配、お金を渡され国立競技場に無事着く事が出来ました。もちろん準決勝進出、翌日の優勝とで、ジャマイカの観光相から「金メダル獲得の手助けをしたお礼」としてジャマイカ大使館から感謝のイベントに招待、同国にもご招待とで、「自分の出来ることをした迄の

こと」と、本人も戸惑い顔。この記事をみて今は遠い国カナダの大地に眠る示現会夜間部受講生の菅原真樹さんの明るい笑顔を思いだしていました。東大宇宙工学の助手で多忙の中オリンピックの通訳の試験に通じ世界のアスリート達のお手伝いが出る事を楽しみに話していた菅原さん。貴女の優しい「おもてなし」の気持ちは日本の多くのボランティアの人達が貴女に変わって頑張ってくれました。

毎日の様にその活動が、新聞の片隅に掲載されています。遠いカナダで大きな夢を見続けて下さい。



▲ 大型作品講座（人物）2021.9.11

◎講座の全てではありませんが、一部は開講しています。詳しくは会館へお問い合わせ下さい。